

米子J.C

[鳥取県]

現役との共催行事を通して 共に地域の発展に寄与

(社) 米子青年会議所は、1958年松江J.Cのスポンスにより、鳥取県で最初の青年会議所として産声をあげました。シニア会は、1970年に発足し、本年度で38年を迎えます。その間、現役と共催の活動並びに現役の活動に対しての様々な支援等を行ってきました。本年度は、井上賢明会長（第30代理事長）のもと、塩谷副会長・岩崎幹事・都田幹事の運営において330名の会員で活動しております。

「現役とつかず離れず、金は出すけど、口は出さない」をモットーとしています。

現役との共催行事として、創立10周年（1968年）記念式典の成功を祈願して始められた新年拝賀式があります。シニア会発足後に共催行事になりましたが、一年間

の全ての事業の成功を祈念するために、第39代理事長の児嶋敏雄先輩が宮司を勤められる、出雲大社米子分院において、元旦0...00よりシニア会と現役が集い、行っております。毎年大晦日遅くに集まり、新年を期して一年のスタートを切る大切な行事になっております。



新年拝賀式での井上会長（左から2人目）と船田理事長（右から2人目）

また、姉妹LOM交流もシニア会が現役を支援する重要な行事になります。米子J.Cでは、「JC INEPAL カトマンズ青年会議所」と「JC IKOREA 釜山東萊青年会議所」の二つの姉妹LOMがあります。カトマンズ青年会議所とは、1975年第17代鶴田武

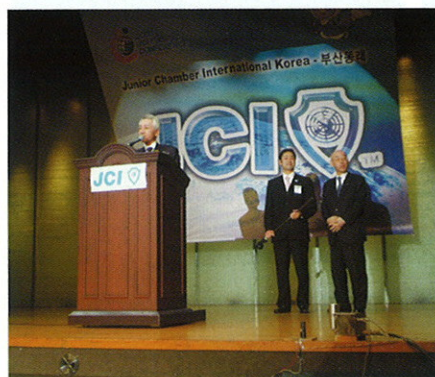


新年会の挨拶をする井上会長

日本JCSニア・クラブ 鳥取ブロック担当幹事 廣江 智

久理事長から、釜山東萊青年会議所とは1989年第31代高野誠司理事長の時代から始まった交流ですが、いずれのLOMとも相互訪問を行っており、現役だけでなく、シニア会も共に訪問し、友情を深めております。特に今年は釜山東萊青年会議所がASPAAC主管LOMであり、現役だけでなくシニア会も支援に協力しております。

他にも、新年会・周年・忘年会・じゃがいも会には、シニア会からも多く参加し、現役との交流の場としております。特に今年は、創立50周年ということで、新年会より多くのシニア会メンバーが参加し盛り上がりとなっております。



釜山東萊青年会議所 33周年式典で挨拶する井上会長